

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県感染症情報センター：宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第40週の発生動向

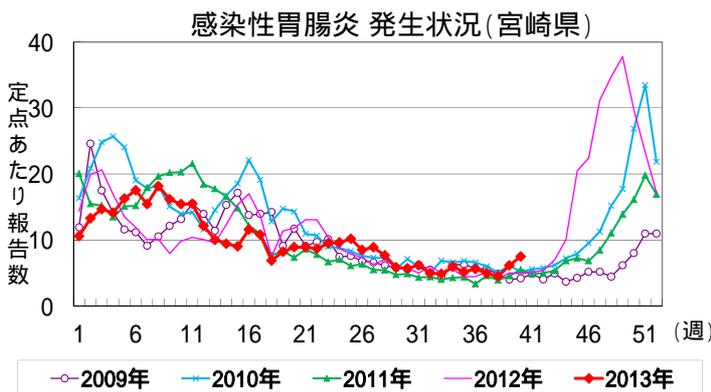
定点医療機関からの報告総数は666人（定点あたり22.6）で、前週比117%と増加した。

前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

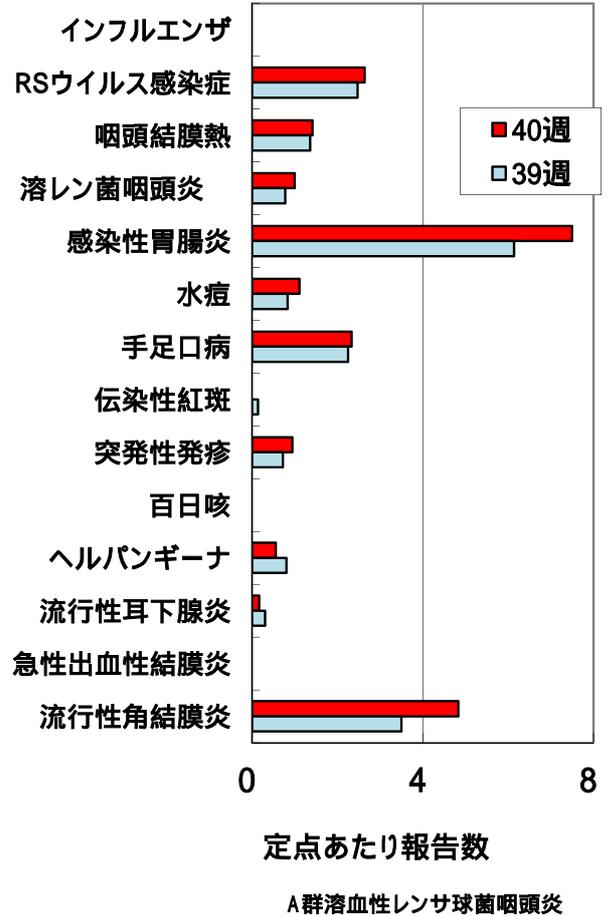
インフルエンザ・小児科定点からの報告

【感染性胃腸炎】

・報告数は270人（7.5）で前週比122%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*（5.0）の約1.5倍である。小林（13.7）、延岡（13.3）保健所からの報告が多く、年齢別では6ヶ月から3歳が全体の約6割を占めた。

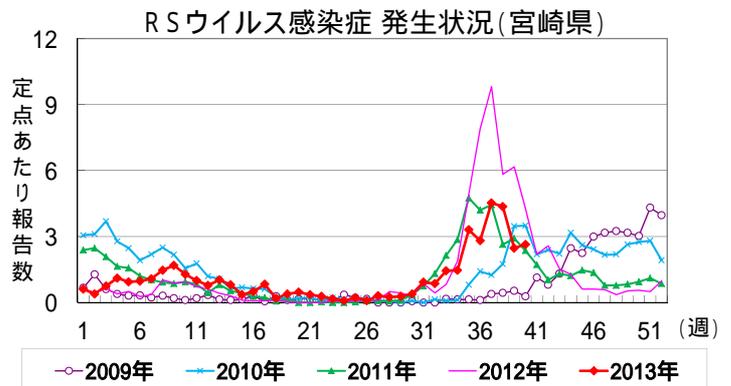


(前週との比較)



【RSウイルス感染症】

・報告数は95人（2.6）で前週比107%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*（2.4）の約1.1倍である。日向（9.0）、延岡（5.5）保健所からの報告が多い。年齢別では6ヶ月未満が全体の約1割、6～11ヶ月が約2割、1歳が約半数、2歳以上が約2割を占めた。



* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

基幹定点からの報告

無菌性髄膜炎：都城保健所管内からの報告で、患者は月齢7ヶ月であった。病原体は不明。

流行警報レベル開始基準値超過疾患

保健所名	流行警報レベル開始基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	咽頭結膜熱(3.0)
日南	咽頭結膜熱(3.7)、手足口病(6.7)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	手足口病(7.5)
中央	なし

* 流行警報レベル開始基準値 *

・咽頭結膜熱(3.0)

・手足口病(5.0)

全数把握対象疾患 (40週までに届出のあったもの)

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 5 例。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症： レプトスピラ症 1 例。
- 5 類感染症： アメーバ赤痢 2 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	1 歳	無症状病原体保有者	-
			50 歳代	無症状病原体保有者	-
			70 歳代	その他の結核 (腸結核)	(画像所見)
		日南	80 歳代	肺結核	咳、痰、発熱
		小林	80 歳代	肺結核	呼吸困難
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	2 歳	患者	腹痛、水様性下痢、血便、発熱 原因菌：O血清型不明(VT2産生)
4類	レプトスピラ症	宮崎市	60 歳代	患者	発熱、結膜充血、黄疸、出血症状、腎不全
5類	アメーバ赤痢	宮崎市	20 歳代	腸管アメーバ症	下痢、粘血便、しぶり腹、腹痛、 右季肋部痛
			50 歳代	腸管アメーバ症	下痢

病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部 2013 年 10 月 6 日までに検出)

ウイルス

報告なし。

細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.8.31	嘔吐、軟便	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	男	2013.8.31	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.8.31	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.8.31	軟便	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.8.31	軟便	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.9.1	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.9.1	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.9.1	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	女	2013.9.1	発熱、水様性下痢、腹痛	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.9.1	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	男	2013.9.1	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	20歳代	女	2013.8.31	発熱	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	40歳代	女	2013.8.31	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	30歳代	女	2013.9.1	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	30歳代	女	2013.8.31	無症状	便	2013.9.24
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	男	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	男	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	男	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	女	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	男	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	女	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	30歳代	男	2013.9.3	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.9.4	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	女	2013.9.4	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	女	2013.9.4	無症状	便	2013.10.4
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	5~9	女	2013.9.4	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	5~9	男	2013.9.4	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	男	2013.9.5	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.9.5	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	30歳代	男	2013.9.5	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	30歳代	女	2013.9.5	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	男	2013.9.6	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	男	2013.9.6	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	女	2013.9.6	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	0~4	女	2013.9.6	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	5~9	男	2013.9.6	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	5~9	男	2013.9.7	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O26:H11 VT1)	5~9	男	2013.9.7	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	男	2013.9.8	無症状	便	2013.10.1
腸管出血性大腸菌(O103:H2 VT1)	0~4	女	2013.9.9	無症状	便	2013.10.1
<i>Salmonella</i> O7群血清型不明	10歳代	男	2013.9.12	発熱(38.3)、下痢	便	2013.9.28
腸管出血性大腸菌(O103:H11 VT1)	0~4	女		無症状	便	2013.9.24
腸管病原性大腸菌(O26:H11 eae)			2013.9.19	EHEC疑	便	2013.9.27
<i>Yersinia enterocolitica</i> (血清型O3)、黄色ブドウ球菌(エンテロトキシンA型)	10歳代	男	2013.9.21	発熱(37.9)、リンパ節腫脹、下痢、腹痛、血便	便	2013.10.2
腸管毒素原性大腸菌(O159:H34 STp)	20歳代	女		EHEC疑、ETEC疑	便	2013.10.1

宮崎市保健所管内の保育園で腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症が発生した。検査の結果、EHECはO26:H11,VT1(24株)とO103:H2,VT1(18株)が分離され、一検体から片方もしくは両方が分離されたことから、保育園内での混合感染が示唆された。今回の事例で分離されたEHECのPFGEパターンを比較したところ、血清型ごとにほぼ同一のパターンを示したことにより、同一クローンのEHEC; O26:H11,VT1とO103:H2,VT1による感染であると考えられた。

10歳代男児の糞便から*Yersinia enterocolitica*とエンテロトキシン産生性黄色ブドウ球菌が分離された。*Y. enterocolitica*は腸内細菌科に属するが、*Y.pseudotuberculosis*と同様、臨床症状が多岐にわたっており、非典型例では注意が必要である。なお、菌の分離は比較的容易であるが、他の腸内細菌科菌群に比べ発育が遅いことから、夾雑菌が多い場合は*Yersinia*属菌がアルカリに耐性であることを利用した検体のアルカリ処理などが有効である。

全国第 39 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 9.1 で、前週比 84%と減少した。今週大きく増加した疾患はなかった。減少した主な疾患は手足口病であった。

R S ウイルス感染症の報告数は 2,962 人(0.94)で前週比 87%と減少した。熊本県・宮崎県(各 2.5)、新潟県(2.4)、山口県(2.0)からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下が全体の約 9 割を占めた。

全数把握対象疾患(全国第 39 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	303 例				
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	93 例	腸チフス	3 例
	パラチフス	3 例				
4類感染症	E 型肝炎	1 例	A 型肝炎	3 例	Q 熱	1 例
	つつが虫病	1 例	デング熱	5 例	日本紅斑熱	4 例
	日本脳炎	1 例	レジオネラ症	19 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	12 例	ウイルス性肝炎	5 例	急性脳炎	1 例
	クリプトスポリジウム症	1 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	後天性免疫不全症候群	14 例
	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	4 例
	梅毒	19 例	破傷風	2 例	風しん	19 例
	麻しん	1 例				

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2013年 第40週(09月30日～10月06日)

疾病名		第39週	第40週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	89	95	15	7	22	6		7	2	36	
	定点あたり	2.47	2.64	1.50	1.17	5.50	2.00	0.00	1.75	2.00	9.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	49	51	12	7	12	11		5		4	
	定点あたり	1.36	1.42	1.20	1.17	3.00	3.67	0.00	1.25	0.00	1.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	28	36	7	2	11	4	3	4	2	3	
	定点あたり	0.78	1.00	0.70	0.33	2.75	1.33	1.00	1.00	2.00	0.75	0.00
感染性胃腸炎	報告数	221	270	36	45	53	34	41	23	3	32	3
	定点あたり	6.14	7.50	3.60	7.50	13.25	11.33	13.67	5.75	3.00	8.00	3.00
水痘	報告数	30	40	12	5	3	2	5	6		7	
	定点あたり	0.83	1.11	1.20	0.83	0.75	0.67	1.67	1.50	0.00	1.75	0.00
手足口病	報告数	81	84	12	11	5	20		5		30	1
	定点あたり	2.25	2.33	1.20	1.83	1.25	6.67	0.00	1.25	0.00	7.50	1.00
伝染性紅斑	報告数	5										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	26	34	14	8	6	3	1	1		1	
	定点あたり	0.72	0.94	1.40	1.33	1.50	1.00	0.33	0.25	0.00	0.25	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	29	20	4	1	6	4				4	1
	定点あたり	0.81	0.56	0.40	0.17	1.50	1.33	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	11	6	2	1	1					2	
	定点あたり	0.31	0.17	0.20	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	21	29	20	7	2						
	定点あたり	3.50	4.83	6.67	3.50	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

全数把握対象疾患累積報告数(2013年第1週～40週)

2類感染症	急性灰白髄炎	1例	結核	200例(5)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	88例(1)				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	4例
	つつが虫病	4例	デング熱	3例	日本紅斑熱	9例
	レジオネラ症	8例	レプトスピラ症	1例(1)		
5類感染症	アメーバ赤痢	10例(2)	ウイルス性肝炎	3例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2例	後天性免疫不全症候群	7例
	侵襲性肺炎球菌感染症	2例	梅毒	7例	破傷風	4例
	風しん	23例				

()内は今週届出分、再掲